

【演習事例】

氏名：富士達也さん（23 歳）

障害：軽度の知的障害（B2）

サービス種別：就労継続支援 B 型と共同生活援助を利用し 1 年半経過

富士さんは特別支援学校の高等部を卒業後、製造部品を作る工場に就職したが、1 年半で退職。富士さんは父親との二人暮らしであったが、父親の体調が悪化したことによって今までの暮らしが困難となり、障害福祉サービスを利用することになった。一人暮らしと一般就労を目指し、共同生活援助事業（ピアハウス）で生活し、就労継続支援 B 型事業所（スマイル）を利用している。

スマイルでは手先の器用さを活かした菓子箱の組立や、金属部品の組立ができていた。休憩時間には昆虫好きの担当職員と一緒に図鑑を見たり、事業所周辺の昆虫を観察することが好きだった。利用から 1 年が経った頃には、他の軽作業にも挑戦してみたいとの要望もあった。

ADL はほぼ自立しており、意思疎通は富士さんからの訴えはほとんどないが、困った時は「困ったカード」を使用し、意思表示していた。職員が話しかけるとボソボソと返答をし、会話の理解力については「はい、はい」と返事をするため分かっているように見えるが、理解はできていないことが多かった。

そんなある日、富士さんがスマイルを利用した時からの担当で、一番に信頼していた職員が 3 月中旬で出産休暇に入ることになり、現在は別の生活支援員が富士さんの担当をしている。他の職員も異動や退職などで入れ替わることが多く、利用開始当初からの富士さんをよく知る職員はいなくなってしまった。3 月初旬に行った個別支援計画の見直し時には、新たな軽作業にも取り組んでいくとしていたが、担当の変更により、実行はできていない状況である。

現在、富士さんはスマイルには通って、金属部品組み立ての軽作業に参加できる日もあったが、1 時間程してお腹を押さえてトイレに行き、そのままトイレにこもってしまった。そこから、ほぼ一日中トイレにこもり、活動や食事時間などの 1 日のプログラムに参加できていない。軽作業に参加した時の活動記録として、「職員に注意されて腹が立った。やり方が分からなかった。」と書かれていた。以前は「楽しい」「褒められてうれしかった」と書かれていることもあった。担当職員が代わった頃、活動中に一度便失禁を起こすことがあった。本人からの訴えはなかったが、職員が気づき更衣を促した。また、以前は使用していた「困ったカード」も最近は全く使用していない。一方で、普段関わりが少ない看護師に、休日中に見つけた珍しい昆虫について笑顔で話していた。

この度、サービス管理責任者は、体調不良で 8 月末で退職となり、異動により 9 月 1 日からサービス管理責任者としてスマイルに着任したてのあなたは、事業所の現状に何となくよくない空気を感じた。富士さんの個別支援計画書【資料 2】を確認したところ、長期目標に「一般就労に向けて、働くための力をつけつつ、やりがいを見つけ、自信を取りもどせるように支援します。また、困ったときには自分から相談できるように支援します。」となっていた。

また、他の職員等の情報収集については【資料 3】に記載している。

資料 1

●事業所の情報（作業内容及びアクティビティメニュー）

- ・近所には商店街や公園があり、交通の便も良い。
- ・スマイル（就労継続支援 B 型）とピアハウス（GH）は同一市内に位置し、徒歩で 15 分ほどの距離。
- ・菓子箱や金属部品の組み立て、清掃作業（特養施設清掃等）、食品加工作業（弁当やパン・お菓子の製造販売）

▼スマイルでの過ごし方

時間	スケジュール	現状
9:00	ピアハウス（GH）出発	徒歩
9:30	スマイル到着 → 更衣 → 朝礼 → 作業準備 → 軽作業（組み立て等） ※適宜休憩	更衣が終わるとトイレで過ごす
12:00	昼食	食堂に人がいなくなる頃から食べ始める
13:00	軽作業（組み立て等）・創作活動・レクリエーションのいずれか	食事が終わるとトイレで過ごす（まれに軽作業には参加できることがある）
15:30	作業終了 → 更衣 → 活動記録記入 → 終礼	以前の活動記録には「もっと色々な軽作業がしたい」などが記入されていたが、最近では空欄がほとんど
16:00	スマイル出発	徒歩